

▲▽組合活動レポート▽▲ 関東地方支部

後継者の確保・育成に向け帆船「日本丸」での海洋教室を開催①

公益財団法人帆船日本丸記念財団では、日頃より船に関係する訓練を体験し、規律正しい団体生活を通じて、海や船に関する知識の増進を図るとともに、協調性や強い精神力を養い「シーマンシップ」を学ぶことを目的として、半日や一日コース、また一泊二日で宿泊を伴うコースの3種類の海洋教室が開催されている

本組合が取り組む、次世代を担う子どもたちが、船や船員に魅力を抱き、一人でも多くの若者が職業として船員を志すよう推進している、海に親しむ活動に共感いただき、財団から、船員のお子様向けに海洋教室を行ってはどうかとの提案を頂戴した。

これを受け、関東地方支部は、横浜港のシンボルとして市民に親しまれ、54年間の長きにわたり、日本の船員教育を担ってきた帆船「日本丸」での海洋教室の機会を新しい形での海に親しむ活動の一つと捉え、全日本海員組合として初の試み、一泊二日の「帆船日本丸海洋教室」開催に至った。

8月24・25日の2日間、子どもたちの夏休みが終わりに近づく中、横浜みなとみらい21地区旧横浜船渠第1ドックに係留している、国の重要文化財である帆船「日本丸」で海洋教室を開催し、近隣在住の小・中学生26人が参加した。

■初日

朝10時、日本丸メモリアルパーク研修施設（研修センター）内の教室に、参加する子どもたちが集まり、開講式を行った。開講式では、日本丸の村田信船長と私がいさつした後、2日間お世話になる日本丸の職員や看護師の皆さんの紹介が行われた。

開講式の後「船のおはなし」と題する講義を、関東地方支部の中山航志在籍専従執行部員および安蔵巧在籍専従執行部員が講師として行った。

講義は、船の種類や航海士・機関士の仕事内容を紹介・説明し、時折クイズを織り交ぜるなど、子どもたちが船に興味を持つよう工夫した結果、参加者は夢中で講義を受けていた。

また、船はどうやって動くのか、船員は何人くらい乗船しているのかなど、積極的に質問が出された。

昼食休憩の後、日本丸へ移動し、初めて見る自分の背丈より大きな舵輪に目を輝かせ、バウスブリット渡り体験では最初は怖がっていた子どもたちも先端まで行くと笑顔でピースをしていた。

この日は、日本丸の船内に宿泊するため、居室の準備や避難訓練の後、研修センターでスタッフも含め、全員で夕食を取った。

夕食後は、レクリエーションで輪投げや、メモリアルパーク周辺の散策を楽しみ、日本丸船内のボンクにベッドメイクして床についた。